

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

令和5年度第1回 理事会議事録

日時：令和5年2月20日（月）14:00-15:40

場所：山梨大学大学院整形外科学講座／Zoom

【出席した理事】伊東 学、大鳥 精司、小田 剛紀、金村 徳相、川口 善治、高橋 寛、竹下 克志、
田中 信弘、筑田 博隆、土井田 稔、永島 英樹、中村 雅也、西田 康太郎、
根尾 昌志、橋爪 洋、波呂 浩孝

【出席した監事】小澤 浩司、播広谷 勝三

【議事の経過の要領及びその結果】

会議は理事長・波呂浩孝が議長となり、webで行われた。

1. 審議・決議事項

① 前回の議事録の確認

修正等ある場合は大鳥理事へ一報する。

② 学術集會に招聘する海外からのゲストスピーカーへの対応

今まで海外のゲストスピーカーをJSSR学術集會へ招く際は交通・宿泊費など全額を負担していたが、日本人が海外の学会に招聘される場合、経費全額を負担してもらえることは稀である。日整会でも上限設定をする流れがある。当学会でも海外のスピーカーを招聘した際の負担額を再考したい。

社会情勢も考えると上限を設定することには一同異論がなく、詳細については今後学術集會プログラム等検討委員会にて議論していくこととなった。

③ 大正アワードの件

波呂理事長が、種市選考委員長から報告された今回の大正アワードの選考結果を報告した。

【基礎】

立花 直寛 武蔵野赤十字病院整形外科

受賞タイトル：RSP02 defines a distinct undifferentiated progenitor in the tendon / ligament and suppresses ectopic ossification

掲載誌：Science Advances, 2022: volume 8: issue 33

【臨床】

三村 哲彦 信州大学医学部運動機能学教室（整形外科）

受賞タイトル：Usefulness of modified S-line for upper instrumented vertebra selection in adolescent idiopathic scoliosis Lenke type 2 curves

掲載誌：Scientific Reports. 2022 Oct 10;12(1): 16996

一同検討の結果、承認した。

- ④ 学術集会プログラム等検討委員会：今後の学術集会における指導医講習会の受講方法について 2026 年第 55 回 JSSR 学術集会の永島英樹会長から、指導医の資格継続と関係するため、今後の学術集会における指導医講習会（いわゆる指導医イブニングセミナー）の開催形態（オンサイト、ライブ配信、オンデマンドなど）を理事会で決めてほしいとの要望があった。
一同検討の結果、指導医講習会はオンサイトを原則とすることを承認した。
- ⑤ 定款等検討委員会：評議員選出規程の変更について
前回理事会で提案された、以下の赤字を追加する評議員選出規程の修正案については委員会で異論はなかった。

評議員選出規程

（再任）第 7 条 ② 3. **（赤字を追加）**

任期中に義務として振り当てられた学会英文誌及び邦文誌の査読業績があること（任期中の全ての査読論文番号リスト添付、任期中に振り当てられなかった場合は不要）

ただ、委員会審議で出された「義務として」に違和感があるという意見に関して一同検討し、「義務として」を削除することで承認した。

- ⑥ 脊髄モニタリング委員会：認定医規定の一部変更について
モニタリング認定医取得に必要な講義・試験は、公平性も鑑み年 1 回、JSSR 学術集会期間中に行う方針となった。それに合わせてモニタリング認定医規程を下記のごとく変更したい。

脊髄モニタリング認定医規程

（資格審査の方法）

第 7 条 **（赤字二重線を削除）**

本学会主催の脊椎脊髄病研修コース「脊髄モニタリングコース」~~もしくは術中脊髄モニタリングハンズオンセミナー~~を受講し、受講後におこなわれる筆記試験に合格すること。

一同検討の結果、承認した。

ただし、この条項の後半部分にある「日本臨床神経生理学会の認定する術中脳脊髄モニタリン

グ認定医の資格を有する人」は講習と試験の両方が免除されるのか、片方だけなのかがわかりにくいという指摘があり、委員会に持ち帰ることとなった。

⑦ 財務委員会：Spineweek 2023 参加者の支援金額の変更について

Spineweek 2023 参加者の支援金額について、先般の理事会では「一人 30 万円」として承認されたが、国際委員会から参加人数が 24 名と多くなったとの報告があった。そのため「一人 20 万円」に変更すべきか問うた。

以下の国際委員会の議題とともに検討し、前回承認通り「一人 30 万円」とした。

⑧ 国際委員会：第 52 回 JSSR 学術集会時の国際委員会招待者旅費、令和 5 年度予算案について

令和 5 年度の国際委員会の予算は、アジアトラベリングフェローの再開や Spineweek 2023 の開催もあり、例年 200 万円程度であったが大幅に増額予定であるとして内訳を説明した。一同検討し、微調整を行った上で承認した。

⑨ JSR 編集委員会：1.二重投稿を防止する JSR 投稿画面の修正 2.2022 年度 JSR 優秀論文の選考 3.優秀論文掲載ジャーナルサイトの改修費用 4.第 52 回日本脊椎脊髄病学会抄録アプリについて 5.2023 年 1 月号の JSR に掲載されたヘルニコアの論文について

1. 先般理事会で承認された『JSR』への二重投稿防止のための施策について、投稿画面に掲示する文面が提示された。「処罰」という文言が強すぎるかどうかという点が議論されたが、強めの文言があることで抑止力になるとの意見もあり、一同示された文案のままで承認した。

2. 以下 2 名が 2022 年度の JSR 優秀論文賞受賞者に選定されたことを報告し、承認された。

- ・ 13-1 号掲載 西村 行政（島原整形外科 西村クリニック）

論文名：L1/2 椎間孔部狭窄の臨床所見

- ・ 13-5 号掲載 寺川 雅基（JR 大阪鉄道病院）

論文名：頸椎椎弓形成術後鎮痛における多剤カクテル注射の有効性の検討：前向き無作為化比較試験

3. 先般理事会で承認された、JSR のホームページ上に JSR 優秀論文賞の記録を掲載するページを作成するための作成費用等を承認した。

4. 学術集会の抄録アプリ（『JSR』3 巻）について、2023 年は引き続き大正製薬から援助を受けられることになった。

今後の援助については不明のため、来年以降のランニングコストや内容について再度 JSR 編集委員会で確認を取ってもらうことになった。

5. 2023 年 1 月の『JSR』に掲載された論文について、保険適用外使用を指摘される恐れがあることがわかり委員会で検討をした。委員会としては、今後適用外使用が疑われる論文については

編集委員会全体で対応を検討することと、投稿システムの画面に、適用外使用についてのチェック項目を設けることを検討中である。対応策や評議員や会員等への報告や注意喚起をどの程度行うかなど、理事会の意見を聞きたい。

一同慎重に議論したが明確な結論に至らず、各理事の発言や提案を踏まえ JSR 編集委員会へ持ち帰って再検討することになった。

⑩ メンバーシップ・コンプライアンス委員会：1月入退会審査

1月の入退会について全員を承認した。

⑪ 名誉会員の推薦について

新名誉会員として以下2名の推薦があったとして推薦書を提示した。

・大川 淳 (東京医科歯科大学病院) 推薦人：波呂浩孝

・平林 茂 (元・帝京大学) 推薦人：川口善治

一同承認した。

⑫ 5月以降の理事会スケジュールについて

5月以降の理事会開催について、4月のJSSR学術集会では対面で、10月の日整会基礎学術集会ではハイブリッドで行う。それ以外の月については毎月Zoomで開催する。一同承認した。

2. 審議・報告事項

①. 専門医制度委員会報告

専門医機構に提出した脊椎脊髄外科専門医の詳細を提示し、研修制度の変更を求められたことを含めその報告を行った。指導医からの移行も来年度で終わるため周知を十分にしていく。

②. COI委員会報告

「日本医学会のCOI管理ガイドライン2022」の内容に従った、当学会の「事業活動の利益相反(COI)に関する指針」とその細則の主な改訂点と方針を説明した。組織COI開示についても開示する方針で案を作っている。

学術集会・機関誌の自己申告書の管理方法を明確にしていく予定である。

また、竹下理事が日整会でのCOI管理の状況について報告をした。

③. 倫理委員会報告

前回理事会以降の審議や決議の内容を報告した。

④. 新技術評価検証委員会報告

XLIF症例数報告終了について厚労書との面談を行った。

また先般の理事会で承認され発足したUBE WGの現在までの活動内容を報告した。

⑤. データベース委員会報告

JSSR-DB2021年度解析状況および、2022年度登録状況を述べた。2022年度は14万件に達する予定である。

⑥. 広報委員会報告

ホームページの更新について報告した。また、日本整形外科学会の患者向けパンフレットについて腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、頸椎椎間板ヘルニア、小児の脊柱側弯症、頸椎症に関して日整会広報・渉外委員会での審議が終了し、出版手続きを行う予定である。

⑦. メンバーシップ・コンプライアンス委員会報告

西田理事が、賛助会員に対するアンケート結果（21社に発送し4社から回答）を報告した。いくつか希望項目が出されたが、学術集会参加証1口につき1枚はどうかを一同議論した。この議論を参考に、委員会に持ち帰り再検討することになった。

⑧. プロジェクト委員会報告

プロジェクト研究症例進捗報告を行った。「頸肩腕症に対する薬物治療の費用対効果」のプロジェクトについては症例登録が完了し、登録施設に対するインセンティブ支払いの手続きを開始した。

⑨. 用語委員会報告

大鳥理事が、2022年度日本医学会分科会用語委員会にて問題となった医学用語について一覧を示した。特に整形外科に関連する用語で変更等が検討されているものについて説明した。

⑩. その他：

・事務局より NLの広告の応募状況について

2023年4月からのNLの広告についての報告があり、過去に比べると少額となっているため、再度声掛けをお願いしたい。

・次回の理事会開催日：3月20日（月）14:00-16:00

以上

令和5年2月20日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 波呂浩孝

監事 小澤浩司

監事 播広谷勝三